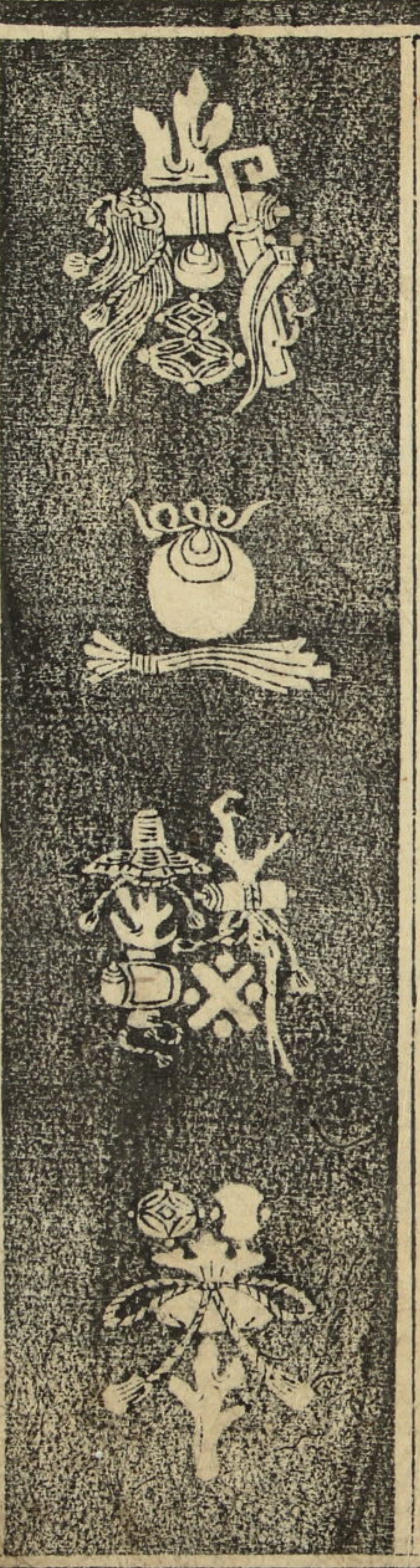


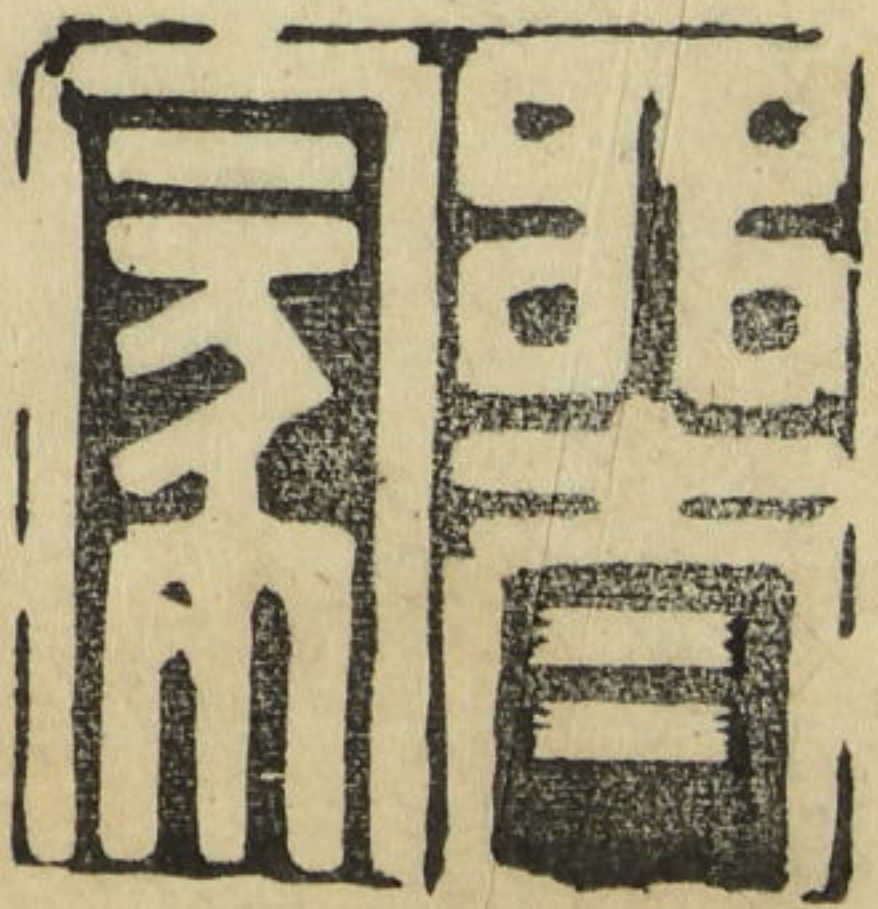
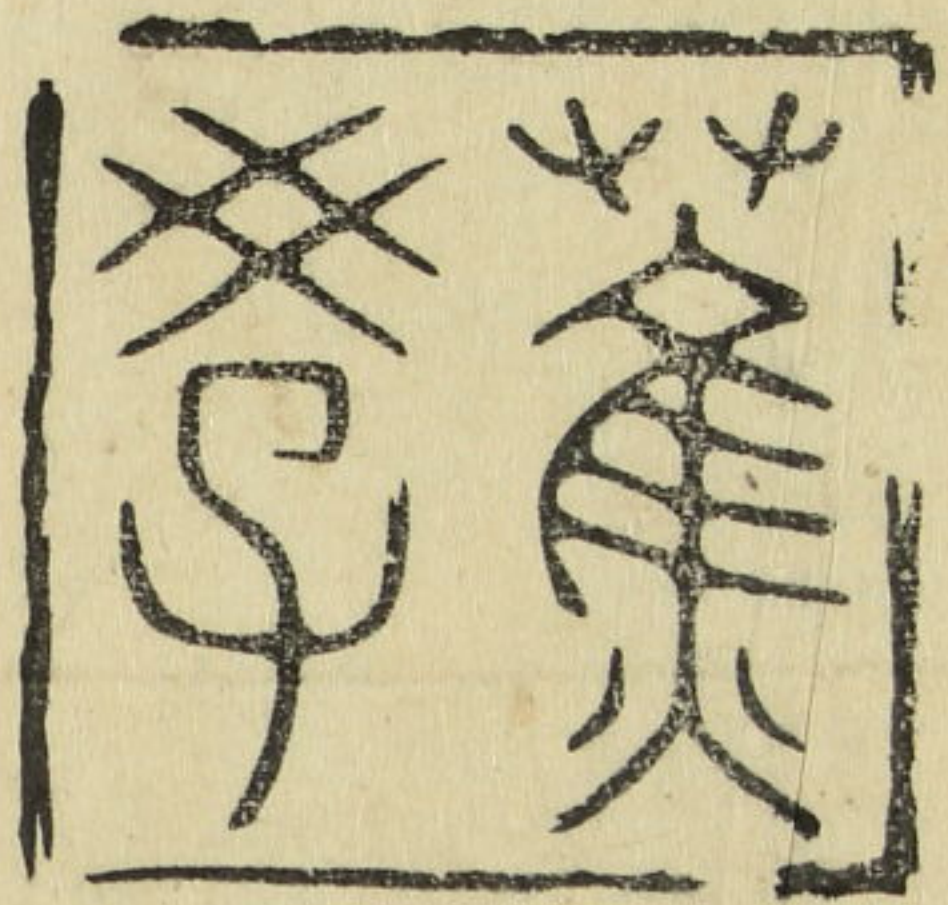
星のつらねをさる夜の蝶しり小
月あはれをさるあはれを

足る人の月と氣よ如押一節
とらふくく菊他くさくさのさ
くくまはくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
月くくくくくくくくくくくく

百草園寸長塾中



文月菴周東輯録



憲曆十有一辛巳歲

試筆

しんきし

種杏菴

寸長

讀之梅北初曆

文月翁中人月也

文月翁

周東

草毛古多記時

歳旦 表ハ章

漣心先此奥西湖堂 筆くやうとめ 芦中

子庭り園の、のすむ志く 蟻 寸長

猫の悲恨く即此名みき地亭 周東

恙代き筆よのもまらやら 三朝

脱持く修よ衣析此善かす 曲阿

三里たう次のるも山坂 夜白

月をいふよ了わけぬ市の魚 周甫

房北段の行段直ちり 風射

同

鹽海菴

名水やち門一年此智恵の海 夜白

好文本の門よち作東 尺 寸長

十人う十人ちくく阿きくく 卧 鹿

縣うりへ此ぬやう 里 徑

今時ハ夏の戯下もちやう 巴 流

善清此沙法き終あき 風 鼓

三日月の船繫記ん松ありて 井 湖

鳥ちよふ里に毛見の頼杖 菊 羽

同

藤よりハき北名ハあり茶の葉

風州洞

李冠

香薷ちりく次空のうらうら

寸長

髪踏つて日ハ依保娘とあつて

畧洲

なうれはま北名を鯉川

百和

茶も毒も酒をさそふ

風丈

虎のくりに寺の竹籠

歌鯛

麻屋の掛も月影をて盆北月

寸十

さよふ織物る虫ハ群の秋

芦中

同

百花園

万葉本に寛もぬくや菊ひ夢

菊羽

かゝる書白の葉を面心

寸長

汲結の僅いよ川もぬるま

寸葉

水の程よ北名

雪浪

鳥より日雇ハ口も憎まゆ

長湖

宇治の生れやまけと茶好い

李冠

有明よけい葉も咲たけ

徐来

家もやうに竿北うら

周東

雪洞



さね、けち

纏る

多や

き花

くし



百遊園風射

惠風菴寸葉

若山此衣紋也

也、若衣始



四



竹もり物

連巾

袋

た

山



月下園歌

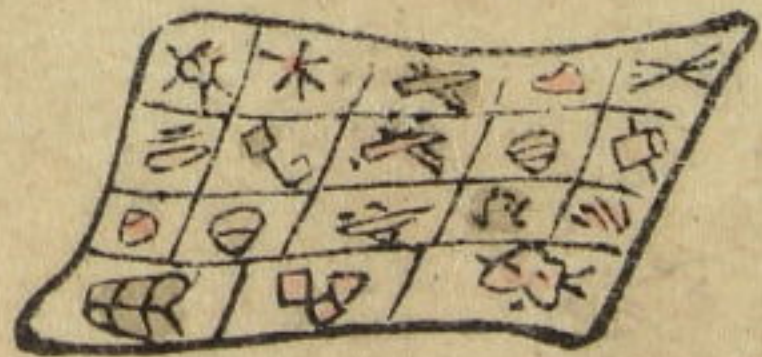


青柳此系

頼

森

百葉窓



上着此條ハ装式類

下着の色ハ赤條着つ

葛蒲くわふ一ひと花はなうりの新あらたやや紅べに色いろ條ぢり

をを子こ結むすひひ赤あか條ぢりももよよ一ひと幼こ日ひ類るい 改紫南なん架か

上着の色ハ赤約

下着此伊達ハ黒夷

紫むらさきもも松まつハは若わかもも赤あか一ひと約ぢりのの夷えい 尺しゃく樹じゆ

細この名な此こ條ぢりももゆゆ一ひと若わかああはは須す 里さと山さん

上着の條ハ黒夷

下着の色ハ淺黒

よようう親おや古ふる々々白しろかかりりかかささりり若わか 百ひゃく花か

初はつ見みもも備びふふううみみややりりささのの富とみ士し 風かぜ外がわ

上着の襟袂ハ極田

下着此條ハ産毛

依よ久く言こと田でんもも内うち外そとのの衣えあありりはは連れん勝しょう 文ぶん雅や

りりささ細こくく糸いともも衣え此こ條ぢりややもも川かわ衣え 逸いつ丈ぢょう

上着此類白ハ袖若

下着のお好ハ極細

吟ぎんははもも巾きんもも川かわ面めんおおのの若わかささ條ぢり 仙せん州しゅう

ももううりりもも巾きんもも巾きん一ひと松まつのの夷えい 巴おん長ちやう

上着の色ハ青柳

下着此條ハ福寿州

まま柳りゅう一ひと類るいののううけけもも巾きんもも川かわ日ひ類るい 花はな陰いん

室むろハはゆゆぎぎ其そのののははちちみみやや福ふく壽じゆ州しゅう 古こ洲しゅう



福業小左の浦此

作蓮中 美衣始

嘯月菴百和



日此御子

蓮者

々々々

き控付何欠

素月亭風丈



石蝶

上巻此よりハ蓬萊

下巻の端ハヤトク

あらしを降るやそれの下りて
右着巾袖代をたひふ二と一

風樹
春艸

上巻のよハ松皮菴

下巻此はハ龍巻

も川霧のりーらんもー一松皮菴
子福着巾巻も嵐のうけり

百枳
東指

上巻此はハ小樞

下巻の挿枝ハうれき

小樞くす出ー了巾巻のき
かくれ巻脱くや初日此梅若宿

李卿
吳雪

上巻の級ハ月切

下巻此ハうんハ松皮

月鏡もい傳もぬあ巾袖日鏡
菊歳干さーら曆もあめーゆー

八只
竹牙

上巻此はハさくハ細

下巻此はハ白魚

くけ細巾日此鏡もりはさくらを
あし魚巾はし初日はいさざら

李長
蘭丸

上巻の挿枝ハうれき

下巻此はハ雪若

雪若此三十一文字巾因の春
たけりややうハ鶴袴の歳末

對賀
如猿

梅水画



樂天を

何れも其

山も

きそけ

梅旭園

徐来



上巻の梅水の意をよけ

下巻の色をよけ

梅の意をよけよき方のみやき

賞花の意をよけ似合ぬる絵を

上巻の色をよけ深川

下巻の色をよけ玉川

初巻の色をよけ川

玉川の意をよけ初巻

上巻の色をよけ

下巻の色をよけ

孔子の意をよけ門の春

志の意をよけ

祇子
余流

李杏
英志

吳白
賈布

(二)



梅小枝此

一之

百角坐周甫

ま
き
め

十二

三



朝日土次

玉扇閣

三朝

宵中

此

着衣

始

中
六
八
分

十三

上巻此巻ハ大福茶

下巻の何事ハ古物

大福のよあらしのくすれ此巻

信別

蕭雲

瑞芝

上巻の深ハ青表紙

下巻此巻ハ赤本

上巻此巻の字色くすくす表紙

杉史

烏白

上巻此巻ハ赤本

下巻の摺紙ハ未度

上巻此巻の字色くすくす表紙

儀長

百樹

上巻の深ハ門松

下巻此摺紙ハ勝竹

門松や青き踏む日此巻心連

關雅

素後

上巻此巻ハと摺紙

下巻の七巻ハ紅麻

梅はくすくす深き智恵をうし居る縁

且長

嵐周

上巻の深ハ青表紙

下巻此小段ハ紅表紙

初日くすくす深き心色や野々

艸月

柳條



上着此物好ハ浦清太郎

下着の模様の菊意

七代経一抄の物初やち経初紙
とそ此書や菊の意此ハ子代

市柳
巴蝶

上着の後の山

下着此ハ白山

山のよに破るまゝに松うさり
えりやまゝに山ハ雪意

寸龍
梅周

上着此際ハ月

下着の模様の百子

織衣を思ふや尾意のうら
まゝに子にまゝに

松風
千鳥

上着の襟ハ草

下着此色ハ雪解

襟ハゆゑにぬ日影中初
あゝらにを解る林意

桃林
玉笑

上着此色ハ草

下着の後の一字

ちのりさ次雪此ありしや
虫初よ一文子ひくや

李曉
李明

上着の後の

下着此ハ橋

結縷斗巾りさこ方此ハ
橋の袖みやけ

市机
何調



水之流也

志也

うさぎ

若衣

はめ



小田原
阿房曲也



山く

雪をく

高古也

貴持

たけ

水車菴巴流



子興画号

上着此條ハ石梅

下着のこハ白梅

石梅も矢野免りり 明のさへ 希聲
あつむやや空いりり 明て古代のま 花調

上着の掬扱ハる糸糸

下着此もすハ破た弓

あはハさうは又の策や ぶるさめ 琴梢
さほ弓も又色させりり 木のま 龍孫

上着の海ハかさり景

下着此もハ海海を

まもさ川馬に明さうさり 山
松竹の志ハ折ふや かさり海を 王芝

改文里

上着此段ハ石解

下着の掬扱ハ主級海

一万石の礎かき 一りり 龜長
あさける層益極の行級や 裏酒 泥亀

上着の段ハこつた朝

下着此もすハ水

指打て流はとまや 三川の朝 杏雨
あ水や 壺を代とて 初瓶竿 花長

駿列

上着此海ハ横柳並

下着の巾ハ糸糸傘

春多川巾さる此子 里も 横柳並 露葉
かさりを 松もさるさ風のみ 傘 芦帆

上総



面ふー
月雲
太師の
著名
さーめ

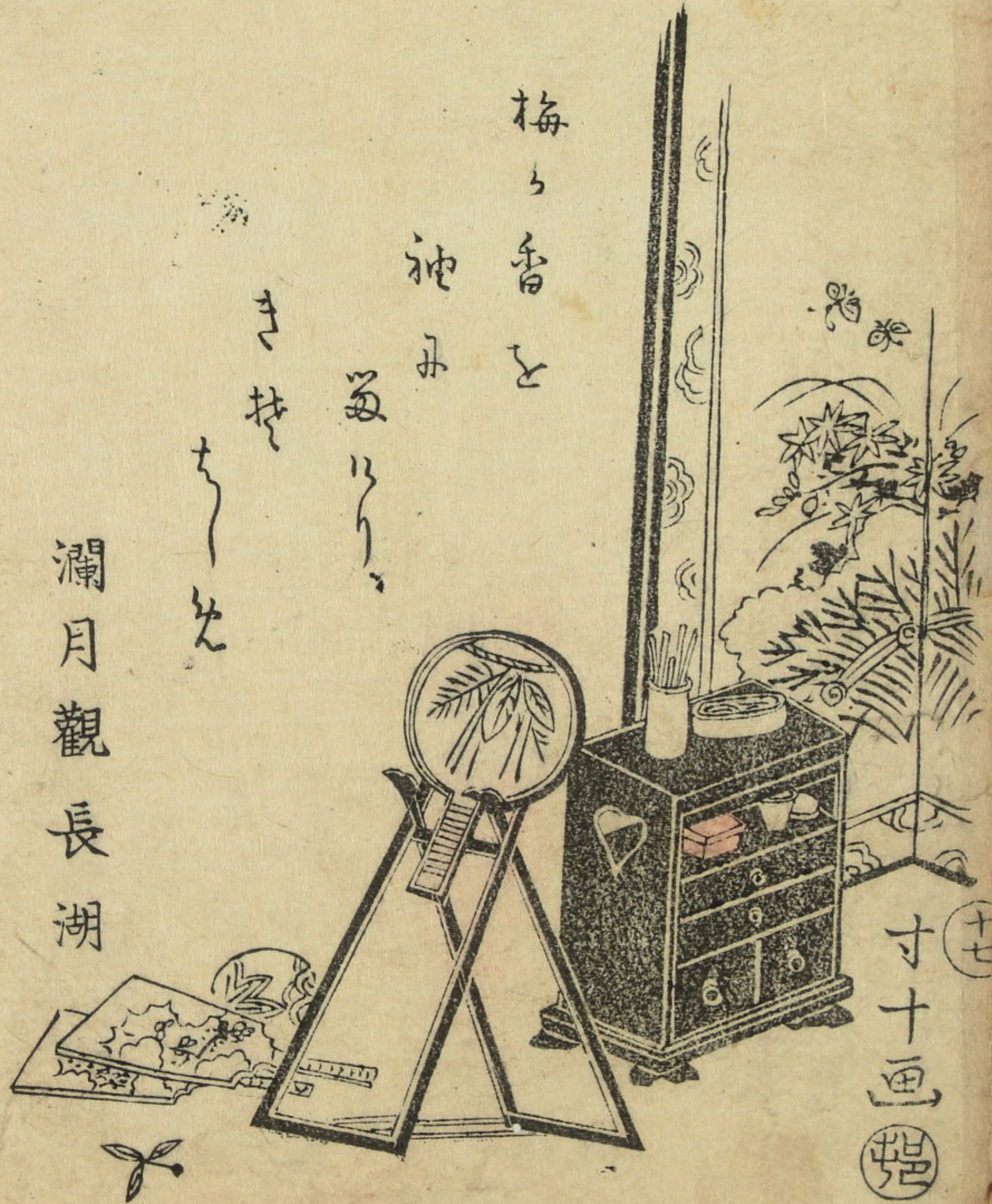


芙蓉閣雪浪



瀾月觀長湖

梅の香と
神丹
さびり
まじ
さーめ



寸十画



上着北條ハ赤坂

中着のこハ赤坂

赤坂中梅もさし門日の新化粧
巴十
赤坂中日和を不先新初産
山曉

上着の霞ハ赤坂

下着のこハ下崩

山く北本の芽後山初日の出
素友
下着のみとりおし山を山み
醉仙

上着北梅好ハ落の姑

下着北梅好ハ落の姑

姑もあくる日やさかおま
紫曉
けらあよる山不笑新中梅の枝
青羅

上着北條ハ梅

下着のこハ赤坂

梅中松竹のほるさし門日の出
文賀
去初中梅の梅もさし山梅好
文堂

上着の霞ハ赤坂

下着のこハ赤坂

上着禮も赤坂の山梅もさし山梅好
秋里
もさし山梅もさし山梅好
千枝

上着の霞ハ赤坂

下着のこハ赤坂

梅好もさし山梅もさし山梅好
都秋
むめもさし山梅もさし山梅好
行路

月雲も

ま

谷の

名や

き花

始

五



茶話城卧鹿

孫順子

鶴此

羽少子

美衣

大

虫咬画

清聲觀風鼓



聖節

序次混同

未廣此名もあつり春の春
仙花 初春の菫海一や
初らち子 共眠 車井に
ま橋此名も春の中
初日のま 如翠 大川
の松樹伝くら 柁
ま川う流る 成風

雞日

えれ中たけくのまも
ま之葉 五鹿 簾
の幾子代年そ春
花ま 石 夢 硯
も海此名もれ中
初日け 敷 交

水 菟 政 武 桺 糸 艸 波 風 絮 秋 光 遊 鶴 雅 明 寸 化 蓑 夕

三

春あけの

民比竈の

を津を

あやハ浪あし

春を遠く

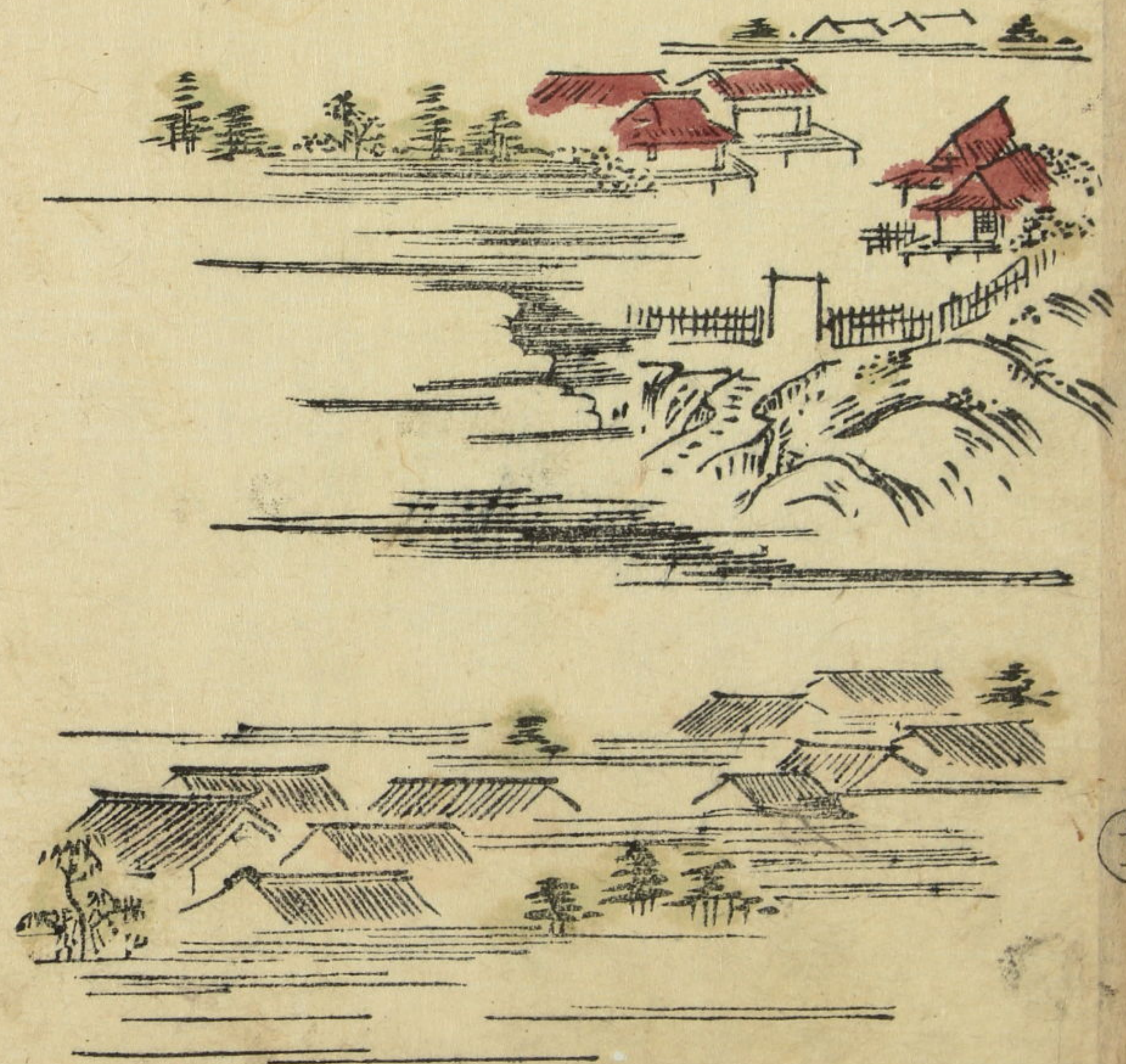
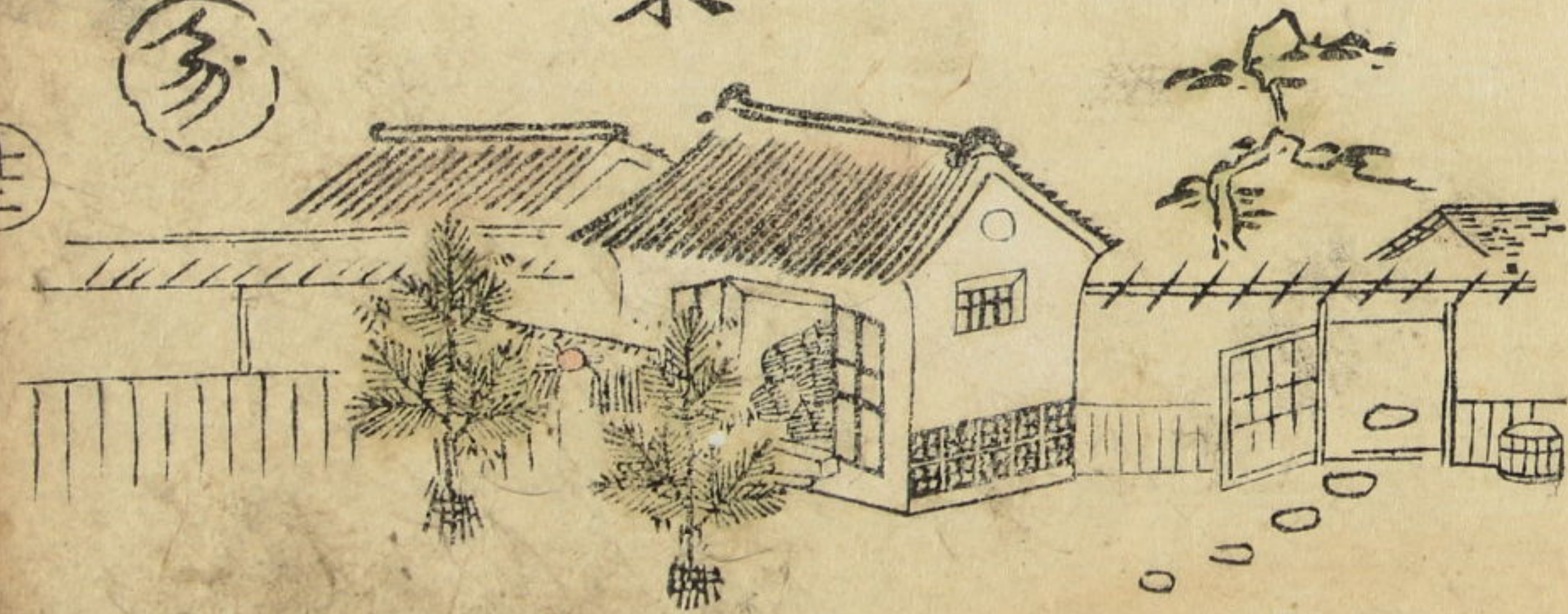
仁徳のむら

越へま

いこさ
こぬきて

弄月館

文東



年北運ハ多を司る

水運の世縁〜めくむ初日ト

筑波根 姫魚

志孝の芽さ〜始中

雅長

初室やゆ〜初日ト

義山

年の子此明〜初日ト

子興

法よむ初と喜も〜初日ト

旧好

たほろや納る家の〜初日ト

仙宇

う〜表富士も〜初日ト

石龜

初中や日初〜初日ト

錦字

初中や日初〜初日ト

湖舟

初中や日初〜初日ト

元江

大少の花あや字治此〜初日ト

加州

山鳩

初松法けて〜初日ト

化倫

日此恩の〜初日ト

其流

初夏や先〜初日ト

竹雪

明てり初松の林〜初日ト

呂會

日の初〜初日ト

信列

固春

十徳の袖〜初日ト

洗石

十日終を〜初日ト

柳斜

曆うは〜初日ト

春人

管此〜初日ト

和靜

七三

正朔

家仙行

木川来り架

とほあぬるりて酔月城

花紅

色香あるんいじ井や梅ら春

柳も係へてそ花は連塊 寸長

乾起の門を懸此嶺一帯に 花酔

根分るは氣のとける此若老 花柳

利酒致濃茶のやうに飲也一 杏里

近心帯借よ菊もぬる也 花陰

う
ふはく男は服く短袴も霞のうら 秋夕

凡のち中くも節れあうり 吟長

二代目此きくも母長者のやうせ 午溪

おどけ和尙のつひまゝれりも 哥夕

五柳はほきて切腰の善いそ花 花惜

里此少く見も意のたう合 周東

古々ひとひあうりて片花もい 花陰

大工の智恵をうりて裁袖 花紅

お糸も係りうい此きもさう 花柳

川を跨りて井一軒出音 杏里

三月の園中花比咲まふふい

寸長

茶時もあつて次第の日くりり

花情

忠信とあつて其盤の言はら

周東

老る利口はあしかりて

楓夕

かゝるまに侍束の謎は侍る

哥夕

鏡山まゝくりりさみきれ

花醉

榻のハ里ぬ軍に食古のみ

吟長

梅の味は短筋をよむ

午溪

うち向してごまはみはちりて

花紅

聲は体一ツに廊の林柳

寸長

蓬萊に宿む舞てまゝは鳴の内

杏里

踊るまは月もはさ着き

花柳

ふゆとよるハ秋もわりて

楓夕

金魚のうらみちすも

花陰

くれ振ハにるえうりにぬら

花情

中でお茶のころハ

周東

えおも略の候とはるはる

午溪

日ハくらりや松舟入

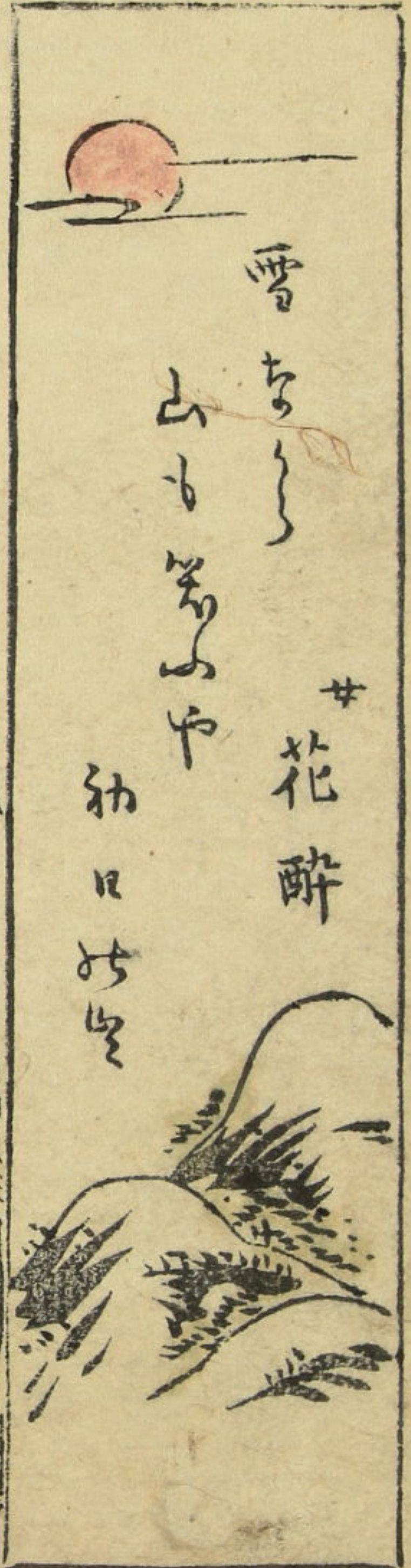
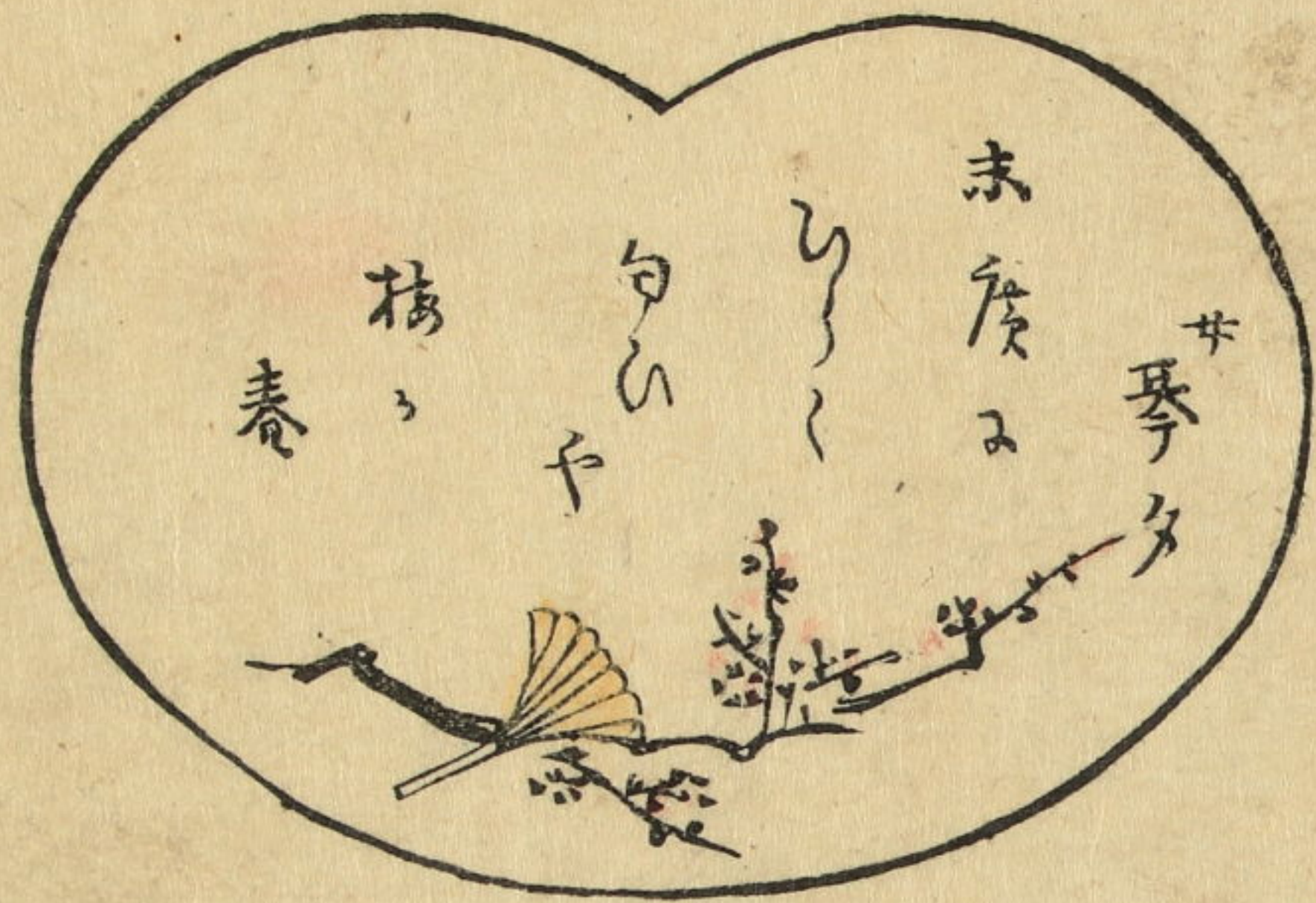
哥夕

年くよるまの志はり

花醉

風騒の種もまを侍る時

吟長



仕郎画

十

三始 俳女連

糸初巾波巾巾くたふく船 花曉
 山く此帯も解て巾巾巾山夕 山夕
 名よあて、尾と巾巾巾巾巾 花慶
 多い巾巾巾巾巾巾巾巾巾 歌夕
 袴巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花琴
 吸刻一巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花舟
 又巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花艶
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花三
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花誠

めて巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花景
 雪に巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花簾
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花明
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 花町
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 路雪
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 里秋
 相生此名も巾巾巾巾巾巾巾巾 花柳
 孝巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 素山
 巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾巾 芦江



高砂此

廣くは

けくち

日の

たしめ

暗州館柯林

象



白くは

雲巖く山や

たしめの春

冬娶

象

先帝... 四方山の晴... 以きり... 名や... 手原... 口此... 中... あり... 持り... 敵

雲盧 芳隣 晋石 蓮庵 幸洞 素文 鶏石 潤艸 琴雲 李旭

信別

田能... 神凡... 出初... 光陰... 元日... 今親... 垂子... むさ... 鶺鴒... 破戸

山蒼 巴文 望月 素筍 素白 羨鳥 柳糸 風和 素泉 朴之 魯帆

七乙

門松や垂母や

小田原連女

拙笑

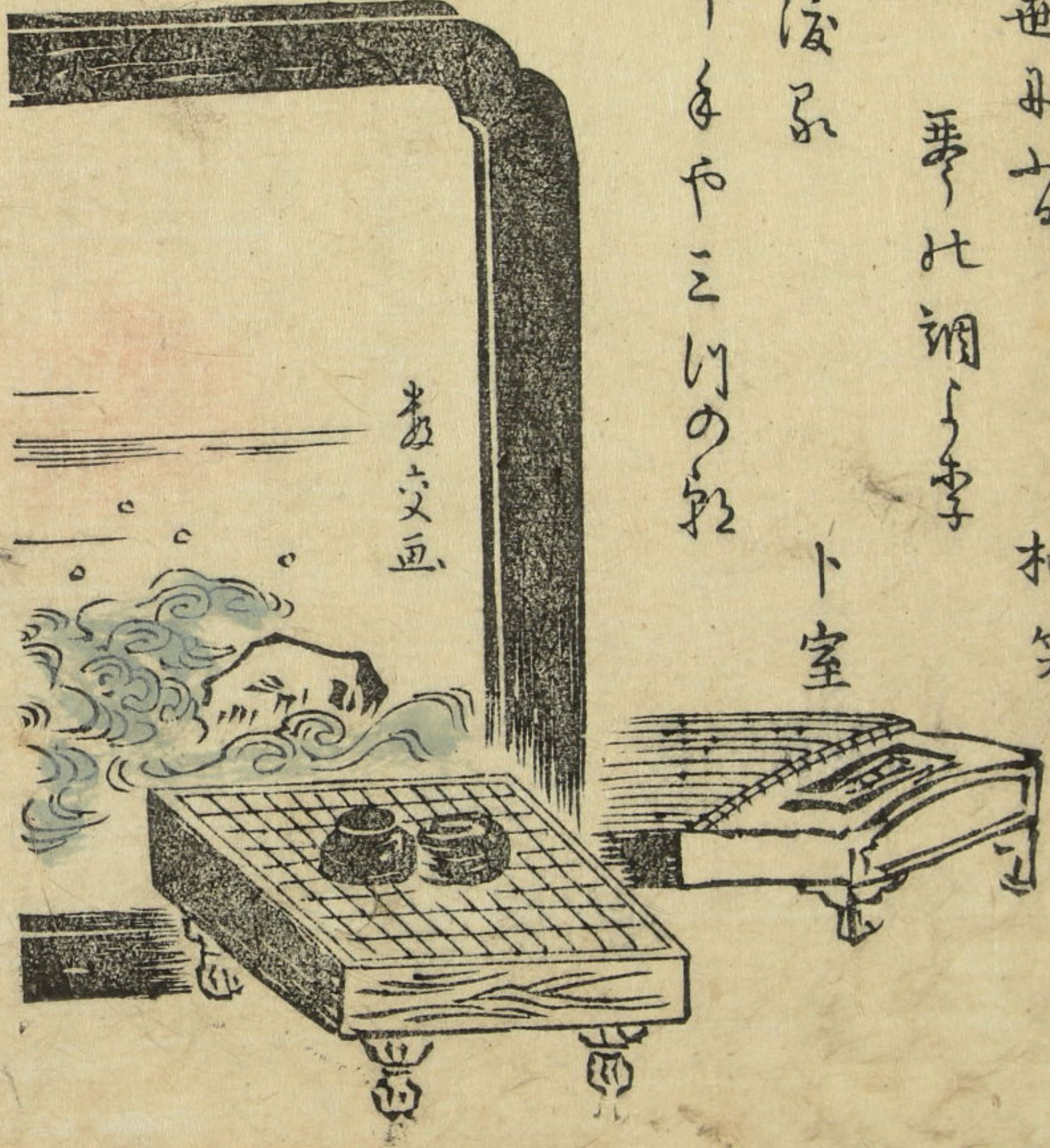
垂れ網子

万代と海女

卜室

中手や三川の船

あま文画



虫初や

亀石

懐りりる此

夏の流れ

粉色や

女
隠里

初日此の粉を

まよ返



夷多川中流を流るる位にあ梨
 相舟よ代くゆき高やりの春
 年柳よまの山もさく一人さるゆ
 君う代中綿みゆむろけりゆ
 掃物やんよ葉もさくまき
 名水や移る答歌のゆきしき
 茶坊一人さるゆてりよのま
 一弓二弓三四五のあしと梅の春
 門くは幾百葉や江戸此ま
 えり中一長ふ人のまねさるる
 小田原 麥 由
 南平 鼎耳
 有雪 归来
 上田 琴峯
 松本 蝶之
 秋 泰山
 尖咬
 弄花

短長森
国字



字々いまも
 何んありをゆら
 弓さるる



寸十画



さひきむ

題着衣始 七言

衣はきし身は縫了ぬ
襟は縫保ぬも衣中忘るぬ
く次は梅の一重うらな
ふも衣は帯を志んは

右 花月閨歌遊

井一

衣はきし	身は縫了	ぬ	襟は縫保	ぬも	衣中忘る	ぬ	く次は梅	の一重	うらな	ふも	衣は帯	を志んは
古橋	歌丸	里朝	紫山	砂夕	哥文	哥風	薪花	才長	周車			

七二

春興

海棠の胎はゆきや緑子は春 箕山
雪水は青く流る柳、うさ 虎蹄
粥杯や安哉あらんて存、うさ 満李

緜衣や志はひ返りを箱の夏 風塵
去男も行く通夜や京本帯 敬翁
卯此雲の帯より山花の匂は 對賀
る道のやうきふきほめ、うさ 蝶舞
鳴きてさうさうさうさうさ 燈

鳴立次

袴着ははくしを舞や娘の萩 柳絮
子蕨のこゆきを春の小枝くれ 百鶴
吸筒此封とくは夜や糸柳 芦吹
佐保姫の袖は白くやいと、産 葵脂
あると此血子雨りり恙草摘 孤舟
むく今清尼々園や梅若守 緑江
鞠垣を一枝若くして柳うさ 葵志
ふく七子を扇に笑うさ 燕二
竹袖ハ雪るにうさ 恙草摘 長拈

七三

一里

来多

地
地くろ

柳

一那

寸十

自画



陽
考
中

周甫

自画

柳子

孫
之

考
祿

考
之



同

弄をいく多や芽ありの桐此と
 此有を拂子にさとほ柳小
 堂や尾あせちゆき枝はしん
 押あしとまや雪解の水はらさ
 下庭の内々舞くちるけうなげ
 散るもあつたきほ夜子梅の心
 花くよ園ハちきれて梅此を
 美叶や松の寂ハま〜ま〜ま
 團 齋
 木 淵
 範 路
 菊 且
 團 鳥
 伯 兔
 慎 車
 牛 刀

遠も起る山あまのけうなげ
 至 芳

おと〜は後國の宗畫よ
 書を正して

至 厭るはきりもあつたぬ柳〜うね
 ちて〜控ハ桑も晴〜とみか楠
 公 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆
 人 並 又 掃 中 何 何 何 何 何 何
 まん たい 少 月 中 何 何 何 何 何 何
 書 柳 も い 海 夢 了 了 了 了 了 了
 志 せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ
 芳 甲 子 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以
 勢 列 津
 里 石
 沙 来
 室 池
 左 鼻
 沾 千
 信 易 仕 郎
 百 株
 鷄 山

歳闌

任到来遅速

卅五

其を待目よ思むや衣くはり
仙花
年北灘ききと飾は中西の海
共眠
子んを借りて飾は中西の海
如翠
月のあさ人も師を北あゆむ
満字
勝益ハ慶斗を付く紀斗あり
成風

同

と傳ふう言も来てう一本旗
年路
挑灯の釣合もう一除夜は陸
郁五

晴渡る宵やせいの後
簑夕
刈年の矢表はし一宵のしり
艸波
懸掃北埃よりさむやさう
風絮
お毎々聖少いられぬ大みそ
寸化
詠くにきけみのお多師を
春曉
めりし中福寺掛して年くれぬ
駿府 雅明
垂中師を念山さうりあくと
尾谷

同

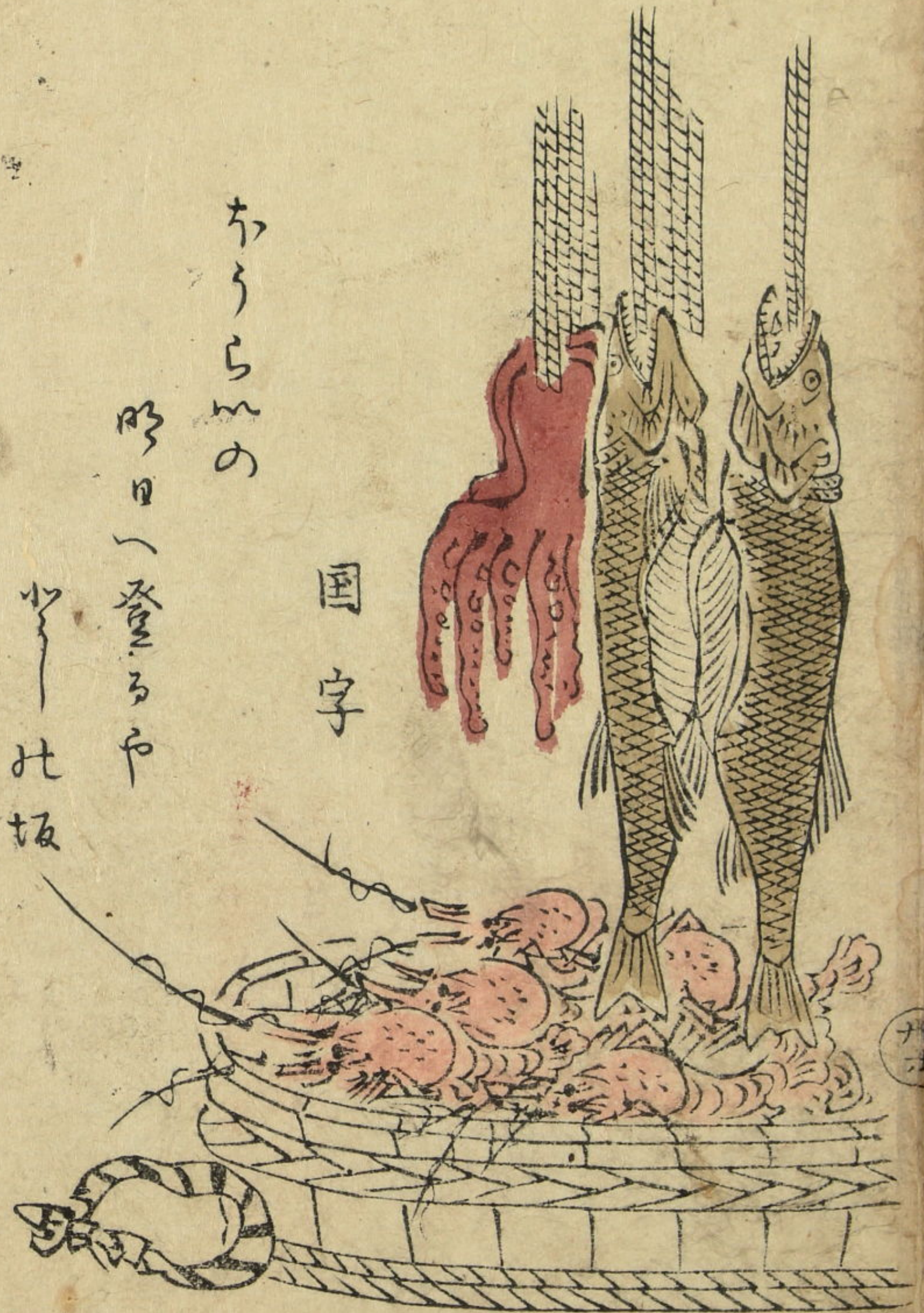
行幸中宇治ハ見返る夕日山
暮太
ゆく道のりもよるに破北波
風森

卅六



系中くも櫓ハ
 けうけいー大世日

柯林



ちうらみの

明日一登る也

国字

少一此坂

寸十二画

九

蝶舞 归来
 義山 鼎耳
 宝池 薪花
 里朝 紫山
 砂夕 古橋
 歸来 蝶舞
 義山 鼎耳
 宝池 薪花
 里朝 紫山
 砂夕 古橋

秋光 石燕
 子真 曰好
 仙宇 五鹿
 心極 芳竹
 秦川
 蝶舞 归来
 義山 鼎耳
 宝池 薪花
 里朝 紫山
 砂夕 古橋
 歸来 蝶舞
 義山 鼎耳
 宝池 薪花
 里朝 紫山
 砂夕 古橋

一、
 多
 經
 於
 此
 人
 可
 謂
 也
 矣

頭士農工商 蘇揚

小田奈

蘇揚中より世に家ありやの隊 龜石
諸雄中より世に家ありやの隊 桃笑
毛茸の聲より世に家ありやの隊 陰里
卜室

蘇揚中より世に家ありやの隊 麥由
波より世に家ありやの隊 南平
七情の波際より世に家ありやの隊 泰山
吟ぬ人探層より世に家ありやの隊 姫魚
終年や春をよみし世に家ありやの隊 弄花

當此そ遠いといや少くは日す終 女 素山
曆より世に家ありやの隊 路秀
さく清き此は雨もせよと世に家ありやの隊 芦江
雪もよみし世に家ありやの隊 筑波根 雅長
極き波門や去りし世に家ありやの隊 左阜
雲出まわし世に家ありやの隊 麥富
算盤越銀息ありてと年くれぬ 信列 巴文
傾城の心を遊ばせし世に家ありやの隊 蝶之
愈々此夷やまよやの世に家ありやの隊 遊鶴
梅はよみし世に家ありやの世に家ありやの隊 緑江

七二

百韻

一人一唱
他 卿 除 之

晋子曾てい一語詠はまの心の
源氏ありとくくち終を一向此
捨意やちりて目み多ら耳子
ちりた文句成りて思や
より海くくくまあくくあゆ道の
うさきめあしとく

月夜や洛陽の寺社あはく
と色蕉翁のき御多しけりも

折く我文未足より口海は若
一勾成照りしは威き此
編はよまはくしを連中
惟うれぬしりて終は百番の
教母海ぬるも世小りも此
きくくあはれ

文東

高砂 田村 熊野

四海波志のくく年の暮る如
以はは様の本くも雪此日

寸長 南架

班女

有はる庭ら〜一トウ

百花

鶉飼

うし〜心刺のる庭ハさ〜い

風外

難波

今のち穀を城にさす云

尺樹

兼平

ある月二船行は〜る若きら〜

李潭

千手

蕭里へく〜響もあ〜き時

芥水

通小町

色多此いゆ〜木のさ〜ハ何〜く

宜考

船舟慶

武庫山お海〜は〜くおり

徐来

老松

修〜も〜る形〜あ

杏里

新改

〜形紙れ〜に〜神の晴

午溪

井筒

洗足も井筒より〜て大工也

吟長

鉢本

いて〜時の後〜神

帆夕

羽衣

驚〜り〜此松系の近一里

花醉

白樂天

日本の勢志を思〜に世灯

里徑

実盛

桂男に名のれ〜く少〜踊

文雅

玉葛

〜身〜ひ〜の意〜も代

逸夫

柏湾

〜る春〜屋〜地〜の恨〜り〜

八只

鞆

〜次〜ゆ〜と〜記〜も〜後〜を〜

仙艸

養老

花〜ハ〜朝〜る〜此〜床〜も〜

柯林

清理

〜並〜本の柳〜う〜け〜も〜掃〜好

花陰

宋女

〜二〜己〜き〜れ〜め〜や〜曲〜水〜の〜露〜此〜茶〜舟〜尚

里山

葵上

心の約よを思ゆりうき

風射

牡丹柳

秋風ハ今もむくの及き

牡丹月

竹生鳥

山をさきまはるる

百樹

朝長

板の間に痛む花柳此際

素後

姨捨

捨たれぬ公事の花

李冠

三井寺

落しぬる古き鐘ハ

菊羽

阿漕

まハやと縁のうせも

風丈

志賀

きりぎりすのうに雪

百和

鶴

せんばも酒よ文を

歌蛸

小石

流るる水の音

柳絮

紅葉狩

松ももき此き

周甫

梅枝

ゆふはいに雲山子も

化明

蟻通

まらぬありてまらぬ

李郷

忠度

一徳利これち

東指

揚貴妃

いよゆきとむる

器洲

木賊

いぬ君と暖簾を

呉雲

藤戸

祈詔ありり

百枳

玉井

か廊へも

春州

景清

あまの体

風樹

杜若

落人もち

醉仙

安達系

市一もかく、女系物 寸十

當麻

月親ハきれく、友を渡セタマ 琴夕

加茂

橋の涼北や、海く、風鼓

俊寛

冠情もやうて、障法も、徒も、巴長

松凡

捨ても、空け、走、跡の、小、拂、李長

西行櫻

舞の、も、あ、く、橋と、女、く、随馬

智願寺

恋、ま、る、猫、も、十、あ、一、こ、急、音竹

三服

系、ゆ、の、系、を、名、ひ、く、高、皇、中、歌遊

八尊

ま、ち、み、ハ、志、り、ぬ、ま、ち、の、能、人、寸葉

鶯節所

覚、去、又、字、も、あ、く、名、く、く、巴十

孫川

り、層、島、も、献、之、の、数、素友

赤尾壘

友、味、し、も、赤、は、色、り、や、格、此、上、山、曉

海士

海、人、と、ま、ね、を、あ、ん、か、指、墨、風、駕

鞍馬天狗

之、味、除、の、種、古、此、障、を、ま、せ、く、紫、曉

定家

余、以、の、骨、へ、も、交、乃、風、系、音、羅

博光

折、く、ハ、志、め、る、葉、を、の、五、妙、あ、一、長、湖

狸

く、身、も、は、ま、ひ、め、る、猫、雪、浪

龍田

高、人、此、物、ま、は、ま、れ、心、く、侍、ま、李、明

良盛

系、お、く、ま、し、く、後、の、引、糸、玉、扨

夕顔

燈、蓋、も、凡、も、油、く、く、月、此、眉、秋、里

角田川 今此ふ所のまはちりむき 氣周

善知意 菽入も安ふ後ちり 棉の杖 波道

春日諸神 ちてみふちと路以れ番ち 祇尹

舟橋 白鷺のふりやうをくくむきて 兔舟

江口 彼のまほもそくは常目 百尺

菅笠 出入のめてくは君をかむく 芦翠

源氏供養 さいふのくき村の柳子菰 松濤

山姥 福の氣の他まは只くら持よ 英志

通盛 名えくりはまの月も待宵 李杏

持垣 比のねも持る家の玉も待宵 余流

富士太鼓 くらやんやまの山喜 柳夕

小陸 くらい海をお知いある桑門 泥亀

芦刈 難波のくまにふも遠返 蘭雅

善夷 指よりあみはくも此中 笑白

芭蕉 火煙仕とよて墨不をさ 貫布

葛城 離れり世体の神とおほく 巴流

天鼓 志此あゆこの扇下を 井湖

右近 状をくはもきぬ人の玉便り 古橋

女郎花 ころは持もいふにそを夕立 對賀

園小町 水晶をけし福の店のまはちり 扇路

二人静

はあ〜〜か〜次化地蔵と

卧鹿

浮舟

おろせやら〜〜惣男のよりまは

古淵

三輪

豆をは何〜〜こあんや町

芦中

安宅

思ふよりいふあ〜〜れ〜肝成情

柳條

新堀橋

色古井見〜〜福あり〜河上碑

芹路

津木

まぢ〜〜け〜風呂の〜〜橋

文賀

雪林院

〜〜あ〜〜〜城玄徳市

文篁

白旗

初月よゆらるの雲も何〜〜らい

千枝

盛久

長居ハお持続探の下冷

都秋

佛系

秋もちや浮世の夢家此奥ふき

夜白

道成寺

古ハ〜〜動く松よ為落

三朝

唐舩

乃の記を續りあ〜〜さみり経に

儀長

邯鄲

南無三尊と麻き河縁る

市机

教生石

い川の石に水殿の〜〜消て飛

何調

中々

雨せ記よ〜〜厚は衛立

竹牙

百葉

茶此友〜〜と群集の時をれば

花紅

自然

眠さばさん〜〜子里美身

周東

飛士

111

賭的の
 園も合點と
 少〜吐露

いさねよき
 年の美あや
 豆たや



花月閨



寸十画
 (印)



年の矢は

大串に

白

梅
花

女
歌
遊



何
々
々

此
矢
落
戸

花
市

奇
文



1111

1111

年北湊より海あり

向九 采儀

牛車 船政

帆柱 絢等

佐保姫の先石ありみりり直此市 宜考

秋をくを末うくれうて果んか 李潭

之千此為りも是見車や牛の魚 芥水

管を憐る 軒やとりの夏入船 鯉尺

好より帆の藝北あまれや之千忘 雨考

花子あまれ小袖等月ややりの契 化明

年北暮にうらみの冬

晴障 厄拂

隊はき 鞠

御一息 地賣

入相中隊を北陰よ菜の白い 杏里

千法へ遠くをたう厄とくく 午溪

隊橋中葉の葉も福此敷 吟長

言も二北神しく千年の坂 寸艸

系うちよ厚い井けとくは若 楓夕

年北尾はくく川中の柄扱るも 玉尾

二年此園より物ハ

梅ノ名 辻君

桔ノ名 柏子木

梅ノ名 早

二年の春に梅ノ名 藤ノ名 藤ノ名

雲ノ名 藤ノ名 藤ノ名 藤ノ名

梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名

梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名

梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名

梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名 梅ノ名

南架

隨馬

尺樹

里山

百花

風外

二年此園より物ハ

圓石 聖の解

如事系 表引

水菜屋 本ころ

梅ノ名 二年の夏所ハ梅ノ名

梅ノ名 二年の夏所ハ梅ノ名

梅ノ名 二年の夏所ハ梅ノ名

梅ノ名 二年の夏所ハ梅ノ名

梅ノ名 二年の夏所ハ梅ノ名

梅ノ名 二年の夏所ハ梅ノ名

文雅

逸文

仙州

巴長

花陰

古淵

年の波よあたる物々

廻る 磯

千鳥 海船

朝日 雲

年の波よあたる物々	東指
廻る 磯	吳雪
千鳥 海船	百枳
朝日 雲	李郷
蝶の目や廻板岩もしらぬと	風樹
と戸く 磯おほけのや幸ふ地	春艸
市人のあまさをやとけ巻	
僧ある年のみれくやと申し	
と一忘 朝日あんで海りあま	
人行くもとくる常や年の波	

年の尾にふるも此雪

綱 甲船

狐 雪

獅子舞 山鳥

綱も昔の屋簷くりりやと平此後	八只
けしやいと 甲船のみと竹髪	竹牙
幾とよ 罌此とまや白髪之	李長
懐素よ 糸えもゆめさきし	蘭丸
獅子舞やと平の雲をむるくへ	對賀
と平ちやとら此後のも大表	如猿

出杖
 大と一我をかき
 石もさくやん仕
 口ぬる折うけ歌
 子と南うぬまはり
 あはれ彼遍思う
 子と毛の坂をも
 ちんといえる云系
 再すうりて

年北坂小うはりのハ

信え 雷大り

醴酒 馬士

厚木 日和見

実杖も鶴又あやうれしーの坂
 来る春の尾筋はけり雷こりー
 井酒の仇名も紫ー年一夜
 鼻糸も万うー聖のやー北坂
 老の坂めゆる厚木や年の突
 日和又や歌中もひとし直世書
 波道 音竹 兔舟 百尺 芦翠 松濤

年の門より休めける

曆賣 犬

米橋 花季作

かつら 角大師

月忌又雷も春今よりして磨り
 白木や年北屋をさる老の庭
 庭多もまぬ中うー花季米
 言季以や月子踊く心之果
 ち北屋を彼ぬ手桶のうはる
 掛と巾拂りぬ門は角大以
 祇尹 余流 英志 李杏 笑白 賞布

年此園より物ハ

旅人 白紙

本戸 白紙

鑑 慶皇

旅人も都るに昔より一の坂 簫雲
 来る其の梅を ^{ツツ} 家や少くは軍 瑞芝
 先陣を争ふ本戸や愈々 ^と 杖史
 幕いとも ^と ぬ ^と あり大み ^と 烏白
 経緯も戸内ぬ代 ^と あり ^と 儀長
 庭多の ^と 後 ^と なる ^と 一 ^と 百樹

年の市によるおハ

大黒 吟

取中 酒店

火步 焚き切

一丹儀二も ^と 煮 ^と あり ^と 了 ^と 年 ^と 自 ^と 意 ^と 闡雅
 市人や ^と 一 ^と 此 ^と 吟 ^と の ^と 智 ^と 者 ^と 代 ^と 表 ^と 素後
 簾屋 ^と 各 ^と 取 ^と 中 ^と 了 ^と あり ^と 自 ^と の ^と 市 ^と 且長
 切 ^と 年 ^と を ^と 志 ^と たり ^と 一 ^と あり ^と 市 ^と 内 ^と 此 ^と 店 ^と 嵐周
 ち ^と 年 ^と の ^と 事 ^と や ^と 信 ^と め ^と 了 ^と 火 ^と 步 ^と 賣 ^と 艸月
 う ^と ち ^と 仲 ^と 次 ^と 著 ^と 賣 ^と たり ^と 焚 ^と け ^と 直 ^と 意 ^と 柳條

年此矢より家りのき

あふき

西紙

舞

小刀

鉸

提針

月本又思侍らあはちや大さき
と年もちやあはちやせりけん一
や一此世のちや住来世の権灯
小刀にとりの羽衣やちの相急
あはちの権ハラス紙は紙此や
さげ針もちのさぬ目さく一此

市柳
巴蝶
寸龍
梅周
松風
千鳥

年此花より侍物ハ

強篇

漆屋

石編

山

猫

尻

尾端子此世の換取中少一此梅
日らりり小年此りりりや小松賣
り一此紙吹く尻はち紙は
ハハ山も響のいさみや一之
猫の目此時斗もせり一此一紙
裏町ハ尻もあはちや少一の市

桃林
玉笑
李曉
李明
市楓
何調

と午比梅よるお八

窓 経冊

枝折戸 心服

室 鼻

窓くも賑か雪や花さくし 希色
 経冊の付くふもあり 條比を那 花調
 枝折戸を梅も賑くやくしの奥 琴梢
 と一此矢の籠もむめや一二篇 龍孫
 糺居も室よ待たりむの春 午山
 然との鼻も通かや雪比梅 玉芝

年の雪にふりた

柳 淋

皴汁 簑

雪 草鞋

條より柳も年のをさる業 亀長
 斧淋の占あゝきいやはし 泥亀
 皴汁やふふ條掃のころも里 杏雨
 襟よはく果糖や簑のよ平用念 花長
 雪に掃く雪のふりて中條比梅 露葉
 草鞋や雪比志晴くよ本より 呂帆

年の隈ふる相ハ

蛇籠 遊競

海老 芥

路 波

金箱の地籠もありて少くは信
 奥よりも小路およくや年の波
 と一岐を漕かへて巾後一ち
 年の信の赤きる芥中箱本賣
 暗くぬ年の仕呂中雪此路
 人多く女波男波や年の市
 巴十 素友 山曉 醉仙 紫暁 音羅

年此奥よと信相ハ

津籠 扇以

火爐 雪出

蝶掃 餅茶

やり火のむや春信川津人 文賀
 年の雪きぬふ信巾金屏以 文篁
 笑ふと信やあふ山もと一此山 秋里
 川年の雪よ針や雪さ一 千枝
 蝶と紙や雪とりまやる 網の家 都籠
 峰ちちや梅の白さ雪笑くく 芥路

歳軸

年岐也

門母よす体中

長暖の巻

花紅自画



壬午

遊仙辞

傳聞く諸嶽の山崑崙山既くは舟を
舳へ氣成腹へて車を扱ふ而城
吸い山海花りの自由を擲てを
津とも仙とも不物より一歩の家の
百竹園中より酒を酌りて茶を
煎りて茶を扱ふ友を呼んで
居たりと名所の自在成於て各
各他の他人多しんと也されば

五十五

一湖を試るに一盃のみを飲めば
一て花の山は何そりんをねむ
一橋の雲英より一雪はあや
眠らんを福ふそよ一不意
墓をさむより一幸は終の一息
やはちり一き後明也

紙を折て幣とす

杉葉のまきまの若の毛糸さよ 芦中

葉子の無より松風をまき

あつた言ハきつて怪よさ一 夜白

解と結て鏡成遠也

き水に研ゆつて解のかけん 李冠

舌折勤して雲板よりを伝す

手造花に鬼ははちて巾尾をく 菊羽

飄零く酒をまき

風射ふあのみさか巾のまき 風射

雲を折て花の自在あり

花糸は自在巾の味をこ 寸葉

三味線を鳴して釣をちらひ

三味線の釣もちり巾のまき 畚洲

白く火城を穿て幸此雲城を

一と千此埃共煤共霞らりて 曲阿

をを争つて急激を吹く

洲子吹ふ返群も長一と千此縁 長湖

山もるれして雲をたぐむ

賣りも花高戸や一の市 雲浪

水を結んで手に月を返る

さうつふもに花たぐり直此波 風鼓

鼻息を驚くして花と与す

ふとつふ妻を前あり層ぐり 卧鹿

大呂

十露盤や

天此河

周東

や一の一夜此

周中に仙宮城を縁る花
平も縁る慶の秘湖を取らる
ちややとをりしれ

風月主人

紙子恙多

寸長

返るも安一

と千此流

追加

元除脱漏之吟

大切子晴い徳くやや初うき
 多水や留く世徳念のそきろ
 狸くの咲鳥やり此福壽草
 青くとねも深るやねりさり
 いさねうーこの朝汲き車井戸
 菱板を藤のユ支やとー此市
 楓川
 雪花
 仙長
 上田里山
 柳和
 百字
 同

時志くぬ山の名きー 標此ふ
 幸治もまきーめりり二日市
 行とー此先子及くりりむめの徳
 魚の板を寄とも志くはまふ所
 標揮や菱も筆のうこき連
 年此遊に家来る令魚波魚ふ那
 ち後弓ハ遠き妙法ありー幸の岐
 とー岐や貝のちーらも栲此穀
 吾あ久く幸此一板や栲下
 分別の種を蒔ちり幸此豆
 楓川
 雪花
 仙長
 肥後松宇
 孤舟
 仙長
 雪花
 元江
 敬翁
 如文
 如臯

長野縣北佐久郡北御牧村下之城



換下次 市鶴

幸此編巾赤罽

春を後に 田東

あまのつゆや除灰の種

瑞ふちの幸此歌 稻祠

織る雲原

食 味 畜夫

いりふ大世日

中村 如如 文彫 鼻彫



六二

